

質問通告書

次の件について質問の通告をいたします。

令和8年2月13日

質問者氏名 塚原正彦
(会派名 うしく未来プロジェクト)

牛久市議会議長 殿

会派代表質問	○	一括方式
--------	---	------

質問事項	要旨
うしくコミュニティ・アグリ（地域で支えるクリエイティブな農のカタチ）構想を提案する ー返還する耕作放棄地を活用して新しい農の実証実験を提案するー	<p>令和6年に25年ぶりに改正された食料・農業・農村基本法（農業基本法）に、食料安全保障とともに、多様な農業形態の創出や地域コミュニティの維持を目的として、都市と農村の関係人口増の方策が明記された。</p> <p>国土の変化に富み、四季の変化がある日本では、生活者が津々浦々で、小さい農地を活用してその土地固有の自然をいかし栽培方法をあみだし、多様な農産物を創造することで富をうみだしてきた。それは現在、人と自然にやさしい日本の食の源泉として世界から注目されはじめている。その分野を強化することで、地域の文化資源と人材を活用した新たな農と暮らしのあり方を創造する必要性が浮上してきたからである。</p> <p>その流れを視野にいれた時、生産性向上を求めるビジネスとは一線をひいて、地域の資源をいかした創造的な暮らしを目標にした生活モデルを提示するビジョンの策定とプレーヤーの養成がみえてくる。</p>

	<p>うしく未来プロジェクトは、「小さい農業」「生活者がささえる幸せ農」という視点にたち農でつながる創造的なまちづくりビジョンを提起する。うしくグリーンファームが農家からあずかった耕作放棄地を返還する前に、上記のビジョンと制度設計を提案するがその考えをうかがう。</p>
--	---

※ この内容は具体的に記載してください。